

読者のコメント

Tello EDUを活用したプログラミング教育の実践

寺岡・浅井・吉田 実践論文では、2020年度に必修化される小学校プログラミング教育について、実践者の立場から、子ども達の「プログラミング的思考力」をどのように育てていくのか、教職員のモチベーションの差をどのように狭めていくのか、を課題としていました。そして、高学年の総合的な学習の時間でのプログラミング教育の授業と教職員研修の実践に取り組まれています。

本論文の特徴は、授業実践と教員研修のつながりにあります。例えば、児童が体験する学習活動と同じ内容を研修に取り入れることで、学習活動でどんな学びがあるかを具体的にイメージできる工夫をしていました。さらに、児童の感想の記述及び教職員に対するアンケートの質的な分析に基づいた実践者による省察がなされており、これから取り組む学校や教職員にとって参考になると考えられます。

今後、本実践研究が継続されるとともに、より多くの子ども達がプログラミング的思考力を学べる授業また多くの先生方の意識が変化する研修内容へと改善されていくことが期待されます。

(読者: 齋藤ひとみ (愛知教育大学))

学習の基盤となる情報活用能力育成の研究 —情報の取り出しと解釈を探る授業実践を通して—

保科・浅井論文、2017年告示の学習指導要領において学習の基盤と位置付けられた情報活用能力について、学校独自の教科「読解科」で育成するために、テレビCM・ラジオCM・新聞広告の比較を教材として、児童がテキストから情報を取り出し、解釈する過程の分析を行った実践です。

本論文の特徴は、情報活用能力を各教科領域の学習で活用していないことに課題を感じ、教材自体を開発したところにあります。マーケティングが目的ではないACジャパンの広告を扱ったことや、伝える内容が同じであるものの表現方法が異なるテレビCM・ラジオCM・新聞広告を比較させたことが、教材開発のポイントとなっています。また、実践をもとに、情報活用能力の育成のきっかけは、情報を読み取る視点を与えることであるとして、今後求められる授業のあり方についての提言を行っている点に価値があります。

(読者: 渡邊光浩 (鹿児島女子短期大学))